

たから、当時の市民の熱意にはすごいものがありました。御成町一丁目、片町、大町などは、火災復興区画整理と市民の努力の結果です。今だから言えますが、大火があったからこそ比較的早く近代都市としての形態が整ったと思います。

市長には政策の発案と執行権が、議会には市民の代表とし的早い近代都市としての形態が整ったと思います。



県内第2の都市として

五十嵐優子さん（南町）

内面の充実を

市制四十周年おめでとうございます。

私は大館市が同じ年なのを知つたのは最近のこと、中学の同級生に市子さんという名があつたのを、今ごろになつてなるほどと納得しています。

私の記憶の一番底にある大館の姿というと、町の大通りを馬そりが通るどかな風景や、今の竹村デパートの一階が畳敷きの売り場であつたのをおぼろげに覚えているくらいです。ただ、幼稚園のころ、母と夜行列車で上京した朝の新聞の“また大館市で大火”という大きな見出しは鮮烈な印象で残っています。家はかろうじて被災を免れましたが、焼け出された近所の人を

おふろによんだことなどを覚えています。嫁ぎ先の今家の押し入れがなく、何でも一回ごとに土蔵に出し入れするのに面食らいましたが、二度も大火で焼け出された苦い経験からくるものとその苦労がしのばれました。

城南小に通つていた私は、三年生のときに新設した城西小に編入されました。通学路が当時のごみ投棄場の横にありましたのでひどいものでした。市内では最新の立派な校舎を誇りに思つたものでした。一中で

ての議決権がありますので、その意見だけを通さず他の意見もよく聞くことです。それらのことを心にとどめ、ますます市が発展していくことを願つてます。

ス編成と比べると、当時の先生の苦勞は大変だったと思います。私が所属していた陸上競技部は男女ともに全県優勝を飾り、また、現在の女子生徒の夏の制服が決まったのもこのころでした。一時は黒鉛ブームにわき、あちこちに新しい建て物が建つて活気のある街でした。しかし、木材産業、鉱業などの不況。また、新幹線や高速道路も通つてない最近の大館は、時代の波に乗り遅れているのはだれしも認めるところです。

その大館は、満四十年という記念すべき年に同年代の若い市長さんを迎え、まさに二十一世紀への扉を開こうとしています。大館に住み、大館を愛しているからこそ見えなくなつてゐるものを、冷静な眼で見据え、捕らえて指摘していただきたいし、市民もそれを素直にかつ謙虚に受け止めて協力してこそ良いまちづくりができるものと思います。

男は四十歳からの顔に責任を持つと言われますが、女とて同じこと。まして、県内第二の都市としての大館は、それにふさわしい内面の充実が必要です。幸い、念願の短大誘致やドーム球場などの実現に曙光がさし始めた。

医 師 数



昭26	554人	1人
平3	639人	1人

小・中学生数



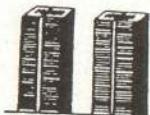
昭26	1世帯	1.1人
平3	〃	0.3人

世 帯 員 数



昭25年	1世帯	5.3人
平3年	〃	3.1人

市 の 予 算 額



昭26	1人当たり	5,984円
平3	〃	254,994円

乗 用 車 数



昭26	84世帯	1台
平3	0.8	〃

電 話 数



昭26	8.6世帯	1台
平3	0.8	〃

市民生活 今と昔